



徐福像（徐福公園）

上陸した徐福は現在徐福公園として整備されている場所に居を構えたようです。  
徐福公園の中心部には徐福の石像が立っています。高さ1.9m、御影石に彫られた徐福はたいへん温かい表情をしています。



徐福の墓（徐福公園）

熊野の伝説では徐福はこの地で亡くなったとされています。新宮市と交流のある中国でもここに徐福の墓があることが定説となっているようです。

1736年、紀州藩祖徳川頼宣が徐福の墓を建立しました。墓碑には儒臣の李梅溪が書いた字が刻まれています。

徐福の墓の場所には2説あって、徐福公園は徐福の住居跡であって、徐福の墓は阿須賀神社境内にある古い石碑ではないかとも言われているのです。

山梨県富士吉田市には『富士古文書』があり、これによれば、徐福はここ紀伊半島に3年滞在した後、富士山をめざして再び東へ旅立ったことになっています。そして、富士山麓で没したとされているのです。つまり、徐福の墓は山梨県に存在することになります。



天台烏薬（徐福公園）

徐福が探し求めた不老不死の薬とは、紀伊半島に自生するクスノキ科の常緑樹で「天台烏薬」（てんだいうやく）であると言われています。

この根は腎臓・胃・リウマチなどの薬となり、また体内で増えすぎた活性酸素を消す働きもあることがわかっています。



七塚の碑（徐福公園）

徐福の墓の横には、徐福の重臣7人を祀った石碑も立っています。

7人の墓はもとは円墳で、北斗七星の形を表していたらしいのですが、現在はここに合祀されています。（大正4年建立）